

# 事務事業評価表

評価対象事務事業名	移住・定住促進経費
-----------	-----------

区分	No.	評価の視点	評価	評価理由
必要性	1	市民ニーズを的確に把握しているか。 目的に照らして事業の必要性はどうか。		
妥当性	2	公的関与の範囲は適切であり、市が行うべき事業であるか。		
効率性	3	事業の手法は適切で、効率的に行われているか。		
費用対効果	4	コストに比して費用対効果は高いか。		
成果	5	十分成果があらわれているか。		

★評価は○△×を記入

委員会 論点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「離れ」にのうみは事業目的に沿った運営になっているか。</li> <li>・「離れ」にのうみの今後の方向性は。</li> </ul>
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 拡充</li> <li>2 現状維持</li> <li>3 見直しの上継続</li> <li>4 見直しの上縮小</li> <li>5 休止・廃止・終了</li> <li>6 その他( )</li> </ul>	評価結果	
意見 改善点など			





平成30年度決算事務事業評価資料(R1.9審査)

別紙4

					担当課	ふるさと創生課
一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	企画費
対象事務事業	移住・定住促進経費(移住促進施設事業経費)				主要施策報告書	13ページ
目的	事業の目的は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者を呼び込み、人口減少を食い止めること。</li> <li>・旧城下町に観光客等による人の流れを作り、地域活性化を図ること。</li> <li>・伝統的な建築物等の保全・活用のモデルケースとして情報発信を行うこと。</li> </ul>				
手法・活動実績	目的達成のために行った手法は何か	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金支給 <input type="checkbox"/> その他( )				
	目的達成のために行った活動とその実績は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古民家の改修工事(2期工事)→平成30年9月下旬完成</li> <li>・施設周知活動→イベント等参加者約900名</li> <li>施設完成記念イベント、内覧会開催、施設周辺マップ、施設案内パンフレット、施設紹介動画作成</li> <li>・施設運用→宿泊利用者265名</li> </ul>				
成果	目的に対する成果は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用者等が本市へ移住すること。(平成30年度2名)</li> <li>・施設利用者による本市の観光等消費が増加すること。</li> <li>・施設利用者が増加すること。(宿泊利用者265名)</li> </ul>				
コスト	事業に係る経費は	内訳	金額	説明		
		施設改修、庭園修景	26,715,852	外構整備、詰所・倉庫建築、内装整備、庭園修景等		
		施設開設準備、運営	11,853,290	開設記念イベント等開催、パンフレット等作成、什器等購入、運営経費等		
		計	38,569,142			
	事業に携わった職員数は	0.5人 ×@7,248,000=	3,624,000	※		
		合計			42,193,142	
財源	上記経費に対する財源(特定財源のみ)は	内訳	金額	説明		
		市債	26,700,000	施設整備事業債		
		その他	11,435,896	移住促進施設使用料、地方創生推進交付金、ふるさと力向上基金繰入金		
		計	38,135,896			
課題方向性	今後の課題は何か	移住希望者の利用を増加させ、本施設の利用者を移住者へと結びつけること。 施設の収益性確保の観点から、宿泊利用の稼働率を向上させること。 本市に存在する他施設や体験プログラム等との連携を高め、本市の魅力発信を強化すること。				
	今後の方向性はどうか	移住体験モデル事業を実施し、その結果を参考に継続的な移住促進事業の展開を図る。 柔軟な施設運営により収益性確保をはかるため、指定管理者導入を行う。 宿泊施設や各種体験プログラムの主催者等と連携し、魅力発信に取り組む。				

※職員の平均人件費を参考数値として示している

平成30年度決算事務事業評価資料(R1.9審査)

別紙4

一般会計					担当課	文化・スポーツ課
款	総務費	項	総務管理費	目	国際交流費	
対象事務事業名	外国青年招致経費				主要施策報告書	30ページ
目的	事業の目的は何か	本市国際交流の発展を図る。 市民の諸外国との相互理解の推進を図る。				
手法・活動実績	目的達成のために行った手法は何か	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金支給 <input type="checkbox"/> その他( )				
	目的達成のために行った活動とその実績は何か	・一般社団法人自治体国際化協会が行う外国青年招致事業(JETプログラム)制度を活用した「国際交流員」の任用。 ・姉妹都市、友好交流都市との連絡調整 ・亀岡市国際交流協会との連携				
成果	目的に対する成果は何か	・姉妹都市、友好交流都市との市民交流の連絡調整 (R1実施のクニツェルフェルト市市民親善訪問、スタディアブロードプログラム) ・国際タイムズの発行(年4回)や国際理解事業の実施(年13回)協力				
コスト	事業に係る経費は	内訳	金額	説明		
		招致青年報酬	3,940,000	@325,000×4ヶ月(4~7月) @330,000×8ヶ月(8~3月)		
		その他招致に係る経費	277,820	自治体国際化協会負担金、研修旅費等		
		計	4,217,820			
	事業に携わった職員数は	0.15人 ×@7,248,000=	1,087,200	※		
		合計		5,305,020		
財源	上記経費に対する財源(特定財源のみ)は	内訳	金額	説明		
		一般財源のみ		(普通交付税措置あり)		
		計	0			
課題・方向性	今後の課題は何か	入国管理法の改正に伴う在住外国人の増加が見込まれているため、市民と在住外国人との相互理解を図る多様な事業を進めていくこと必要となり、多言語を話す国際交流員の確保が課題となる。				
	今後の方向性はどうか	姉妹都市、友好交流都市との交流を積極的に進める等、本市の国際交流事業を推進していくため、今後も国際交流員を任用する。				

※職員の平均人件費を参考数値として示している

平成30年度国際理解事業等（亀岡市国際交流協会との連携事業）

	事業	回数	参加者	備考
1	ワールドフェスタ	2	111	ジュニアワールドフェスタ、ワールドフェスタ
2	ホームステイ事業	1	35	ホストファミリー8家庭25名、留学生10名
3	国際理解学習 光秀まつり甲冑体験	1	8	
4	国際理解学習 ドイツ文化交流&サロン	1	27	
5	国際理解学習 オーストリア室内楽コンサート	1	200	
6	国際理解学習 オーストリア映画上映会	1	100	
7	国際理解学習 グローバルカフェ	6	132	
8	総会交流会	1	40	
9	京都学園大学との連携事業	2	54	台湾留学生と交流&ワークショップ、中国留学生との交流&ワークショップ 各1回
10	姉妹都市交流事業	3	44	蘇州市訪問団との交流事業、キッズアート交換プロジェクト、オクラホマ州立大学（OSU）留学生とのプログラム
11	外国にながりを持つ子供の学びを支える研修会	3	110	
12	日本語ボランティア養成講座	1	32	
13	南丹圏域日本語支援ボランティアスキルアップ講座	2	63	
	合計	25	956	

平成30年度決算事務事業評価資料(R1.9審査)

別紙4

					担当課	自治防災課							
一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	企画費							
対象事務事業名	セーフコミュニティ推進事業経費				主要施策報告書	51.52.53ページ							
目的	事業の目的は何か	セーフコミュニティのシステムを活用して外傷予防の取組を協働で効率的に進めることで、亀岡市をより安全で安心して暮らせるまちにする。											
手法・活動実績	目的達成のために行った手法は何か	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金支給 <input type="checkbox"/> その他( )											
	目的達成のために行った活動とその実績は何か	セーフコミュニティ推進協議会において多くの関係機関等が課題の共有や方向性の検討を行った。具体的な対策は、6つの重点課題に応じて2011年に設置した対策委員会において多くの市民や関係機関、団体、企業、大学等と連携して進めた。											
成果	目的に対する成果は何か	<table border="0"> <tr> <td>交通事故負傷者数</td> <td>59%減少</td> <td rowspan="3">} 2011年と2018年の比較</td> </tr> <tr> <td>刑法犯認知件数</td> <td>66%減少</td> </tr> <tr> <td>自殺率</td> <td>70%</td> </tr> </table>					交通事故負傷者数	59%減少	} 2011年と2018年の比較	刑法犯認知件数	66%減少	自殺率	70%
交通事故負傷者数	59%減少	} 2011年と2018年の比較											
刑法犯認知件数	66%減少												
自殺率	70%												
コスト	事業に係る経費は	内訳	金額	説明									
		セーフコミュニティ推進事業経費	7,291,424										
		セーフスクール推進事業経費	4,225,586										
		計	11,517,010										
	事業に携わった職員数は	3人 × @7,248,000 = ※	21,744,000	合計 33,261,010									
財源	上記経費に対する財源(特定財源のみ)は	内訳	金額	説明									
		みらい戦略一括交付金	4,482,000	京都府支出金(概ね1/2)									
		計	4,482,000										
課題方向性	今後の課題は何か	亀岡市のセーフコミュニティ活動では大きな成果が出ていることを市民に知って頂き、亀岡市は安全で安心なまちであると認識されることが課題である。											
	今後の方向性はどうか	安全向上の取組を発展させながら、亀岡市が安全で安心なまちづくりを積極的に進めていることを市内外にさらにアピールし「住みたいまち、住み続けたいまち」の実現を図る。セーフスクールは次回認証は取得せず、保育・教育活動の中で安全・安心な保育所・学校づくりを進める。											

※職員の平均人件費を参考数値として示している

セーフコミュニティ・セーフスクール決算額・概算見込額

(単位:千円)

		SC	ISS	計	
H23	SC事前審査	5,234		5,234	
H24	SC現地審査 SC認証式	11,687		11,687	
H25		5,901		5,901	
H26	ISS事前審査	5,273	4,567	9,840	
H27	ISS現地審査 ISS認証式	3,407	5,197	8,604	
H28		3,140	1,070	4,210	
H29	SC事前審査 ISS事前審査	5,691	1,923	7,614	
H30	SC現地審査 ISS現地審査 SC認証式 ISS認証式	7,291	4,226	11,517	
R1		2,175	250	2,425	(予算額)
R2		2,175	0	2,175	(概算見込)



# 数字で見る亀岡市の セーフスクール活動

セーフスクールに取り組んでいる小学校や保育所（園）では、大きくケガが減少しています。



(児童・乳幼児1人あたり件数)

曾我部  
小学校

2011年度

4.41 件

2018年度

3.30 件

25%



亀岡市立  
8保育所

2012年度

4.02 件

2018年度

2.93 件

27%



あゆみ  
保育園

2014年度

2.06 件

2018年度

0.94 件

54%



子どもたちが主役の取組を一部紹介します。

いじめ防止フォーラム  
亀岡市立曾我部小学校



子ども自身でいじめを無くす方法を考える「いじめ防止フォーラム」  
曾我部小学校



保育所を守るヒーローになって活動する「安全点検活動」  
亀岡市立保育所



危険な箇所を地図にする「安全マップづくり」  
あゆみ保育園

# 数字で見る亀岡市の セーフコミュニティ活動



## セーフティドライブプロジェクト



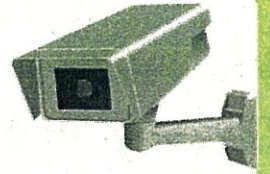
決められた速度や交通ルールを守り、安全走行をする取組です。

# 487 台

2019年8月末現在  
(協力いただいている10法人与市民の登録台数)

## 防犯カメラ

自治会やコンビニエンスストアにも協力していただいています。



# 96 台

2019年8月末現在

## 「まち・レコ」プロジェクト (ドライブレコーダーによる見守り活動)



車の「ドライブレコーダー」を「動く防犯カメラ」として活用し、まちを見守る取組です。

# 615 台

2019年8月末現在  
(協力いただいている14法人与市民の登録台数)

## 乳幼児の事故 予防活動

乳幼児4ヶ月健診時に保護者の方に家庭内での事故予防を呼びかけています。



# 548 人参加

2018年度実績

## ゲートキーパー養成講座

自殺を予防するため、自殺のサインに気付き相談窓口につなぐ「ゲートキーパー」を養成しています。



# 99 人養成

2018年度実績

## 転倒予防教室

高齢者の転倒による骨折を防止するため、転倒予防教室を実施しています。



# 239 人参加

2018年度実績

## セーフコミュニティ応援隊

セーフコミュニティ活動を支えるため、広報や啓発活動に協力していただくボランティアの皆さんです。



# 49 人

2019年8月末現在

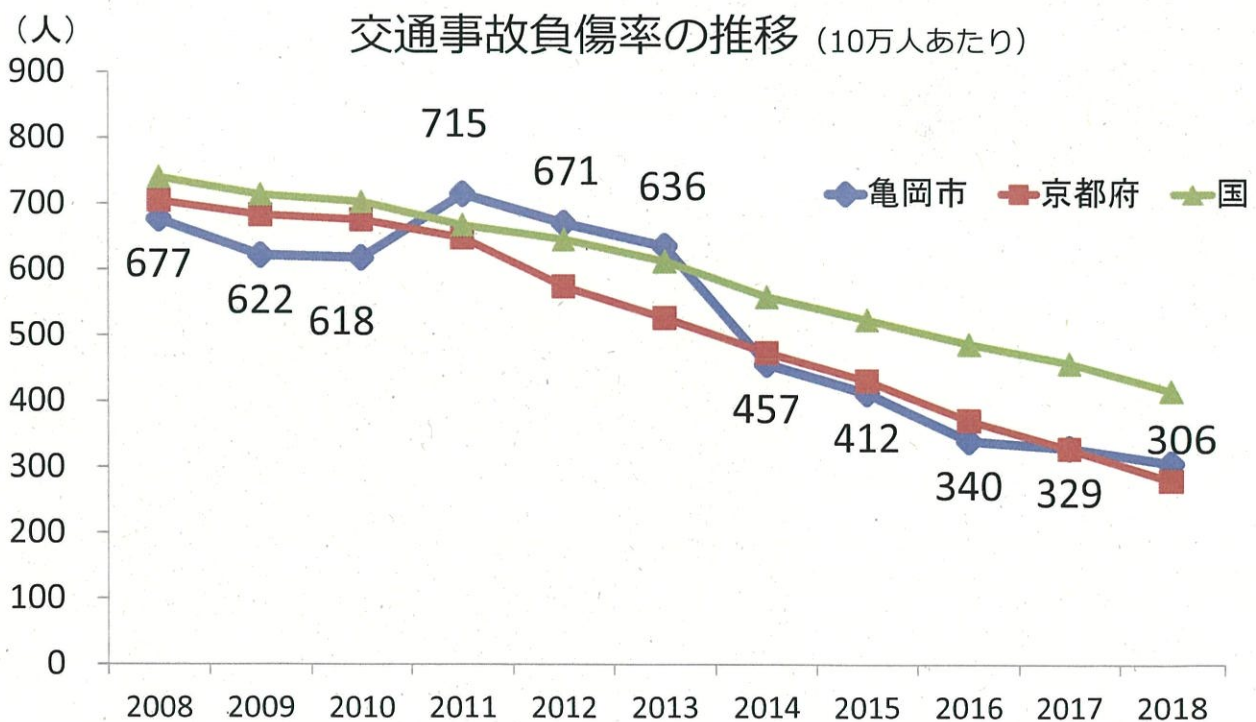
# 交通安全対策委員会

団体名等	役職等	氏名
楠新聞舗 代表取締役	委員長	中尾 臣裕
亀岡交通安全協会 会長	副委員長	石野 正作
亀岡市地域交通安全活動推進委員協議会 会長	委員	安藤 忠雄
亀岡市老人クラブ連合会 会長	委員	山木 茂
亀岡市自転車指導員	委員	井上 美鈴
京都府府民生活部安心・安全まちづくり推進課	委員	小野 利幸
京都府亀岡警察署交通課 課長	委員	西村 基弘
亀岡市立育親中学校 校長	委員	吉田 徹
亀岡市立本梅小学校 校長	委員	藤田 哲也
亀岡市総務部 部長	委員	柏尾 寿和
亀岡市学校教育課 課長	委員	土岐 泰久
亀岡市桂川道路整備課 課長	委員	澤田 誠
亀岡市土木管理課 課長	委員	藤本 泉泰

1

## 活動の成果

「交通事故負傷率は55%減少」



2

# 対策委員会の活動状況



## 【セーフティドライブプロジェクト】

市民の方にご覧のステッカーを車に貼って安全走行に努めていただき、安全意識の高揚と事故抑制を推進します。

3



【防犯対策委員会と合同で  
マグネットのデザインを  
審査】

【プロジェクトの内容が  
テレビで放映】



4



【亀高で自転車の  
マナーアップを啓発】



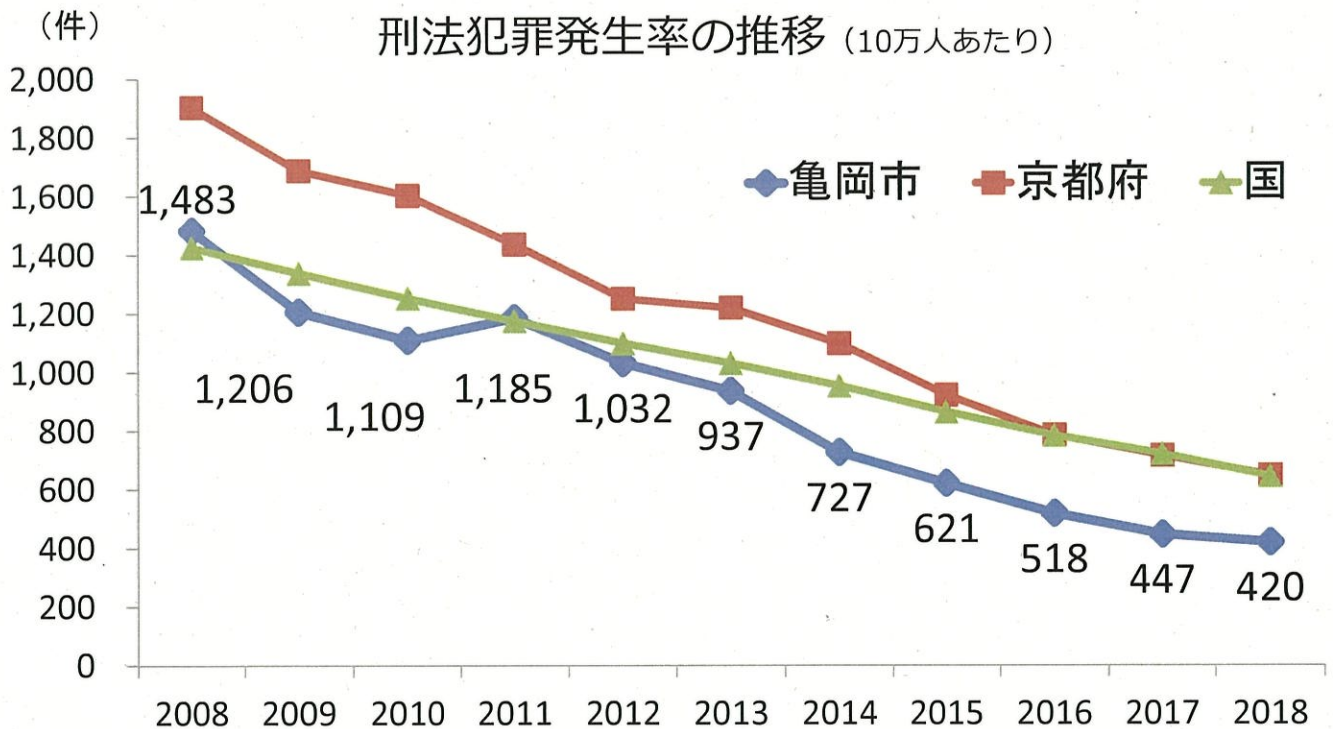
【吉川小でオリジナル反射材を作成するワークショップを開催】<sub>5</sub>

# 防犯対策委員会

団体名等	役職等	氏名
亀岡防犯推進委員連絡協議会 会長	委員長	十倉 康吉
亀岡市青少年育成地域活動協議会 副会長	副委員長	廣瀬 春雄
並河駅前防犯ステーション会議 会長	委員	田中 浩之
京都先端科学大学 経済経営学部 准教授	委員	阿部 千寿子
亀岡防犯推進委員連絡協議会 会長代行	委員	村田 登茂子
亀岡警察署生活安全課 課長	委員	高橋 聡
亀岡警察署地域課 課長	委員	中村 優子
京都府安心・安全まちづくり推進課 主幹兼係長	委員	金子 尚香
亀岡市立本梅小学校 校長	委員	藤田 哲也
亀岡市立東輝中学校 校長	委員	川勝 哲也
亀岡市学校教育課 課長	委員	土岐 泰久
亀岡市総務部 部長	委員	柏尾 寿和

## 活動の成果

「刑法犯罪発生率は72%減少」



# 対策委員会の活動状況



## 【まちレコプロジェクト】

市民の方が設置しているドライブレコーダーを動く防犯カメラとして活用し、まちの見守りを行う取組です。

8



## 【自転車盗防止に向けた啓発活動】

9

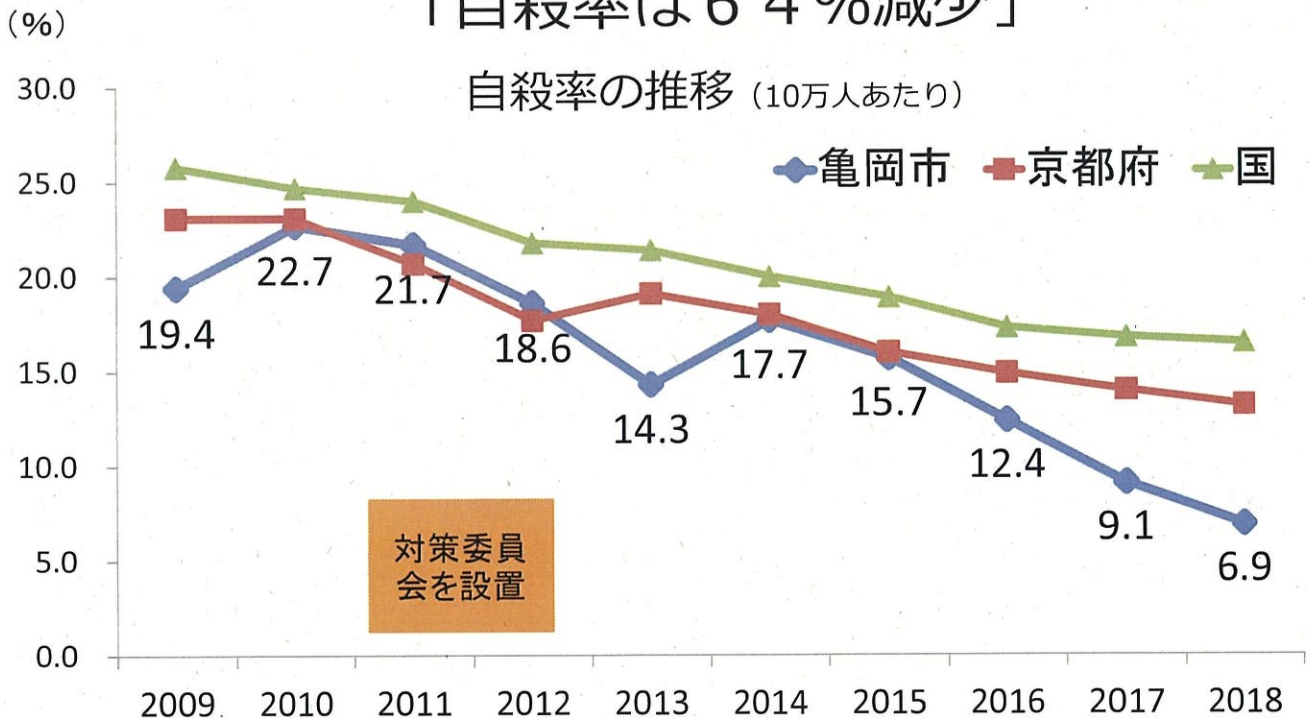
# 自殺対策委員会

団体名等	役職等	氏名
京都文教大学 臨床心理学科 准教授	委員長	松田 美枝
京都司法書士会	副委員長	浅井 健
亀岡市民生委員児童委員協議会	委員	藤本 邦雄
亀岡市医師会 瀬尾医院 院長	委員	瀬尾 博
亀岡市医師会 瀬尾医院 精神保健福祉士	委員	上田 勇輔
亀岡地域包括支援センター	委員	岡田 麻利子
亀岡市薬剤師会	委員	能勢 悠介
亀岡市障害者相談支援センターお結び	委員	大槻 浩史
亀岡市生活相談支援センター	委員	小出 新一
亀岡市社会福祉協議会	委員	山本 淳仁
京都府南丹保健所	委員	光井 貢
亀岡警察署生活安全課 課長	委員	高橋 聡
亀岡市地域福祉課 課長	委員	佐々木 京子
亀岡市障害福祉課 課長	委員	俣野 敏和
亀岡市健康増進課 課長	委員	大西 博之
亀岡市市民課 課長	委員	増田 幹子
亀岡市自治防災課 課長	委員	森川 寿文

10

## 活動の成果

「自殺率は6.4%減少」



11



# 対策委員会の活動状況

## 【委員がゲートキーパー養成研修を実施】



＜ 民生委員を対象 ＞



＜ 市の若手職員を対象 ＞

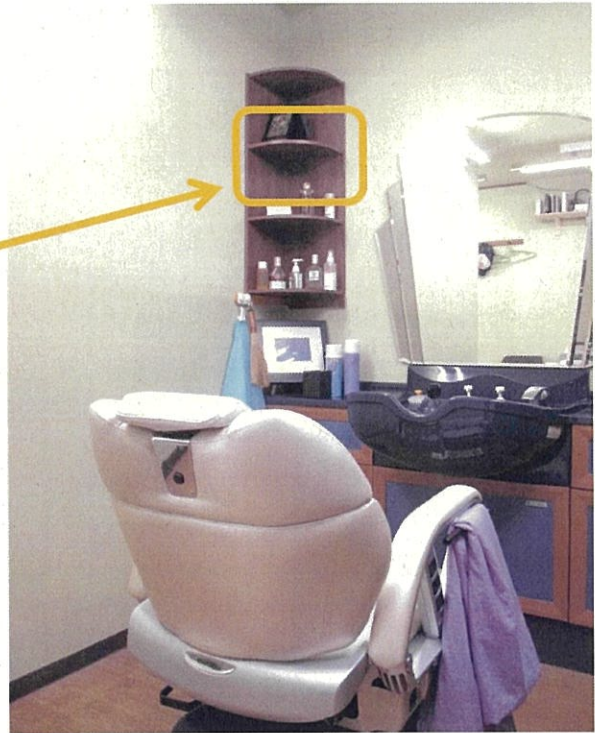
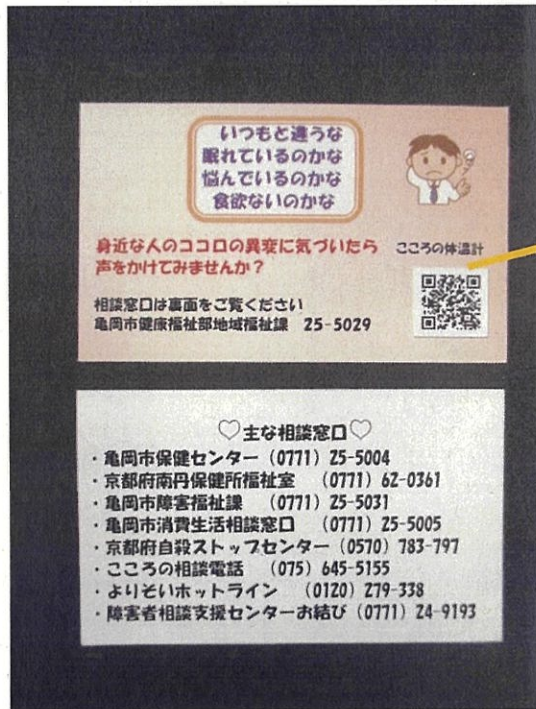


## 【自殺対策強化月間に係る 街頭啓発】



## 【企業向けの啓発パンフを作成し配布】

## 【相談カードを市内各所等に設置】



理美容院は市民が客として定期的に訪れ、また客との会話も多いことから、変化に気づきやすいとして新たに依頼しました。

# 乳幼児の安全対策委員会

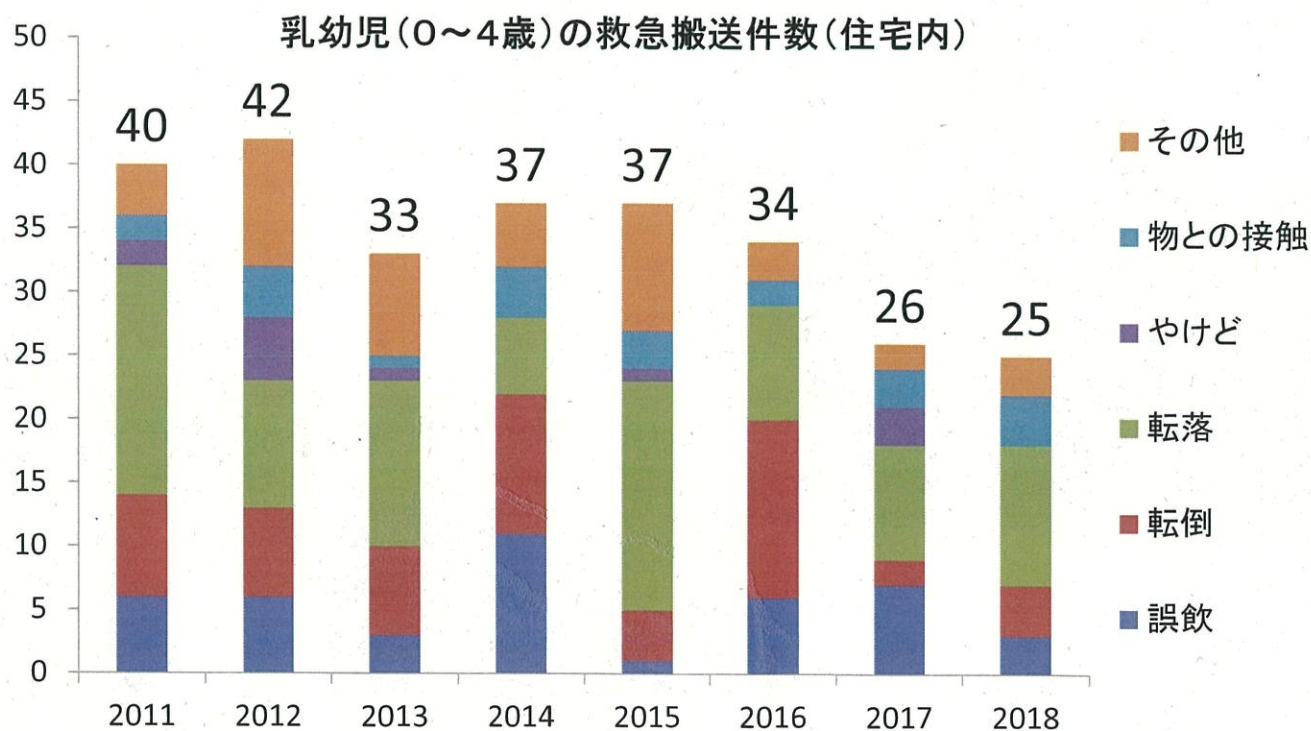
団体名等	役職等	氏名
亀岡市民生・児童委員協議会主任児童委員連絡会	委員長	山口 みどり
京都府南丹保健所 保健室 副室長	副委員長	中澤 奈緒子
京都第一赤十字病院 救急科 副部長	委員	安 炳文
NPO法人 亀岡子育てネットワーク 副理事長	委員	石田 数美
亀岡市立亀岡幼稚園 園長	委員	中井 佐栄子
公立保育所養護研究所(亀岡市立保津保育所 所長)	委員	宅間 由香
亀岡市立本梅保育所 主幹養護師	委員	岩佐 ひとみ
亀岡市立中部保育所 主幹保健師	委員	庄田 晴美
亀岡市子育て支援センター センター長	委員	金田 爾子
亀岡市子育て支援課 課長	委員	森岡 浩之
亀岡市立自治防災課 課長	委員	森川 寿文

15

## 活動の成果

### 「住宅内における搬送件数は減少傾向」

(件)



16

# 対策委員会の活動状況

【京都女子大学と連携し実用的な啓発パンフレットとポスターを作成】



17

【パンフレットを用いて子育てサロンや市の4ヶ月健診で啓発】



18

## 【市内各所にポスターを掲示】

委員自らが、幼い子どもをもつ家族が訪れる店を中心に、ポスターの掲示依頼を行いました。



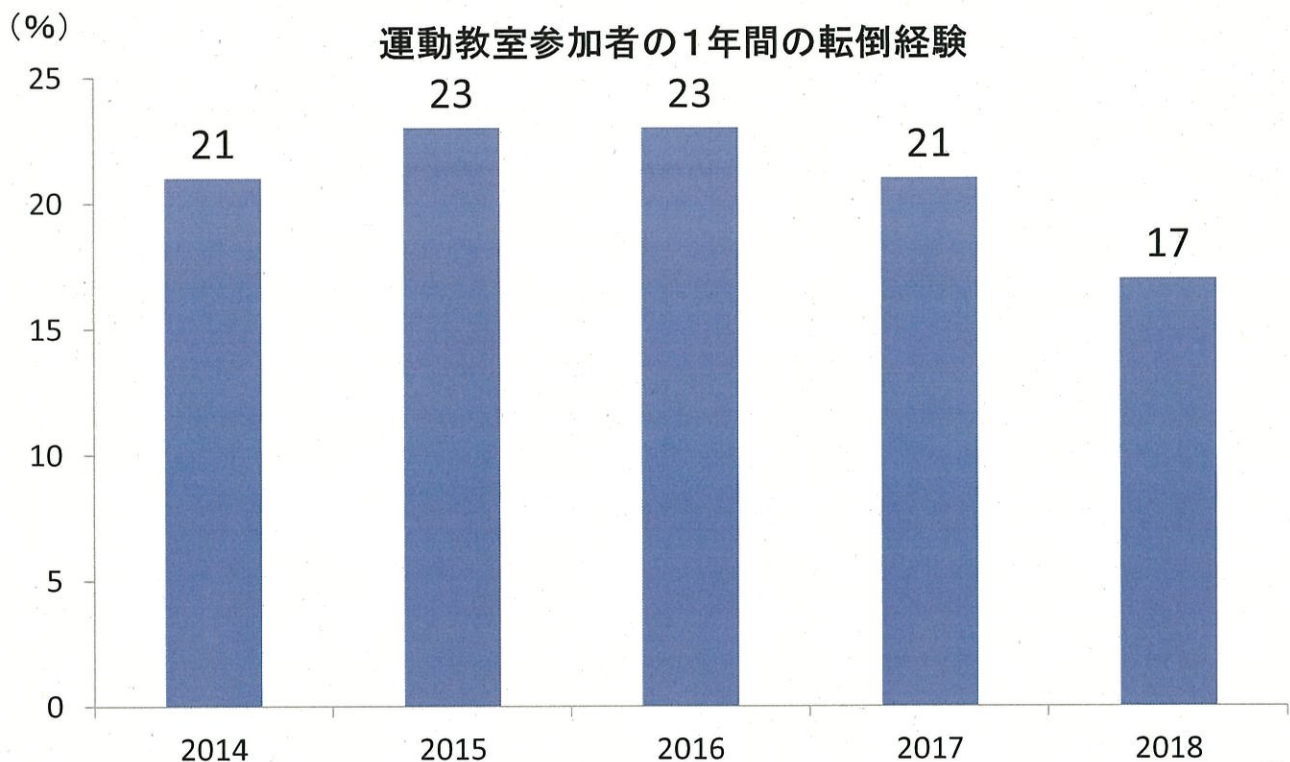
# 高齢者の安全対策委員会

団体名等	役職等	氏名
京都先端科学大学 客員研究員 京都府立医科大学 名誉教授	委員長	木村 みさか
千歳町自治会 会長	副委員長	廣瀬 義直
宮前町地区社協 会長	委員	西田 佳弘
亀岡市民生委員児童委員協議会 会長	委員	中川 國彦
篠町自治会 会長	委員	中井 康雄
京都先端科学大学 特任教授	委員	吉中 康子
亀岡市篠地域包括支援センター センター長	委員	松本 善則
亀岡市老人クラブ連合会 副会長	委員	小川 秀嗣
南丹保健所 企画調整室 室長	委員	山田 政則
亀岡市高齢福祉課 課長	委員	山内 美恵
亀岡市健康増進課 課長	委員	大西 博之
亀岡市保険医療課 課長	委員	荻野 和幸
亀岡市自治防災課 課長	委員	森川 寿文

20

## 活動の成果

### 「運動教室参加者の転倒経験は減少傾向」



21

## 対策委員会の活動状況

【認知症等高齢者の早期発見につなげる取組を実施】

### 靴用反射材シールを 配布



反射シールを確認することで、市民も迷わず声をかけることができるようになり、より多くの見守りと迅速な捜索につなげることができます。<sup>22</sup>

【高齢者の転倒予防に向けて、運動教室を各地で開催】

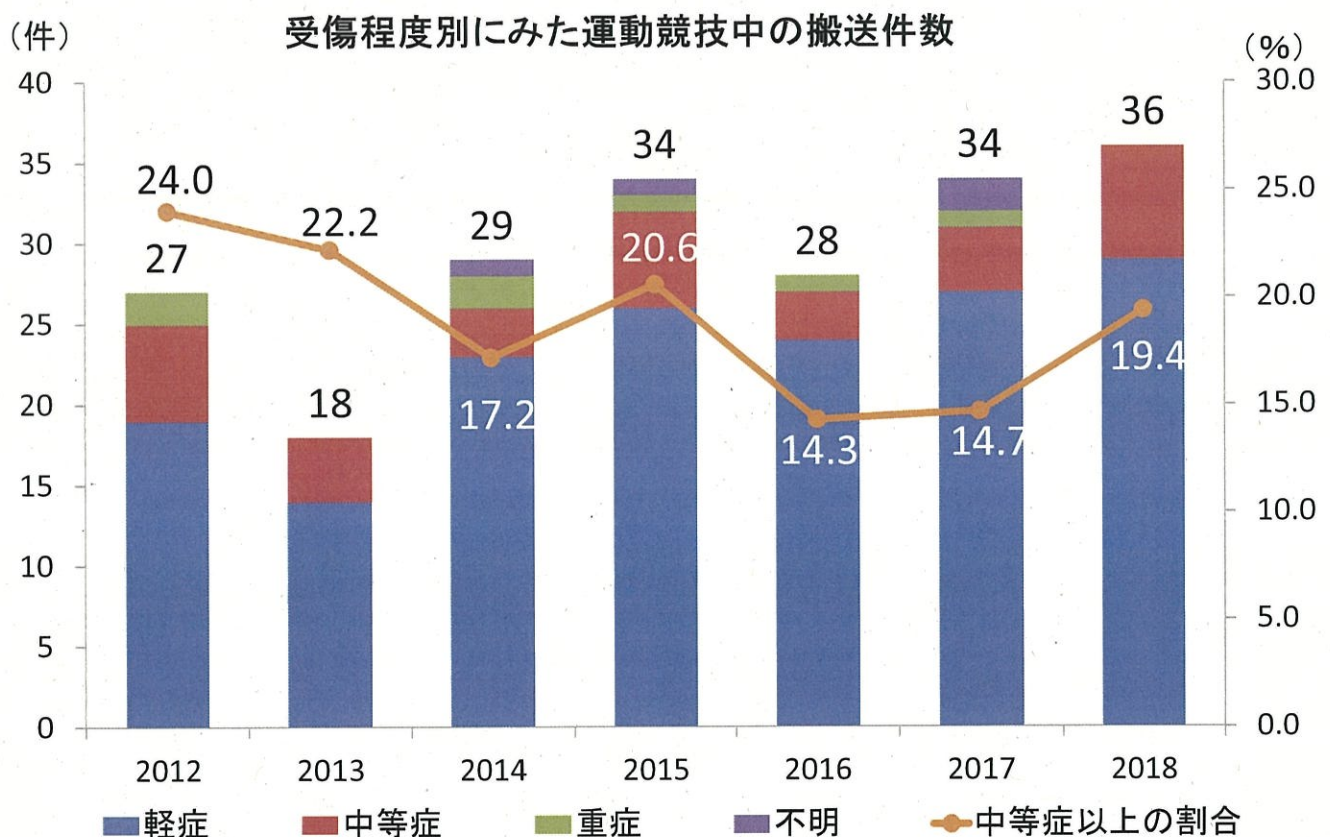


# スポーツの安全対策委員会

団体名等	役職等	氏名
京都先端科学大学 経済経営学部 特任教授	委員長	吉中 康子
亀岡市スポーツ協会 事務局長	副委員長	大石 典之
アスレチックコミュニティアンフィニ代表	委員	松本 崇寛
川東剣道 代表	委員	紺谷 義一
スポーツ推進委員協議会 会長	委員	奥野 正三
スポーツ推進委員 代表	委員	福田 明美
京都先端科学大学 健康医療学部	委員	坂本 帆駿
京都サンガF. C. ホームタウン推進課	委員	美馬 大人
亀岡市立南桑中学校 校長	委員	金丸 京子
亀岡市文化・スポーツ課 課長	委員	三宅 泰宏
亀岡市自治防災課 課長	委員	森川 寿文

24

## 活動の成果



25



## 対策委員会の活動状況

### 【スポーツ少年団の外傷時の対応を調査】

ケガの状況やケガ予防に向けてどのような工夫をしているか委員自ら調査を行いました。



26

### 【ケガ予防に関する研修会を開催】



#### 《これまでのテーマ》

- ・「スポーツ選手のための熱中症対策と栄養の基礎」
- ・「選手の力を引き出す効果的なトレーニングの考え方」

27

# スポーツ中のケガが多い中学生を対象に、京都サンガF. C. のコーチを講師に招き、ケガ予防の講習会を実施



＜ 亀岡運動公園体育館 ＞  
（バレーボール部）

＜ サッカー部 ＞  
（大成中学校）



## 【ケガ防止に関する啓発パンフレットを作成しスポーツ実施者に配布】

### ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性

スポーツ時のケガを防止するために、運動をする際のウォーミングアップ（トレーニング前の準備運動）やクーリングダウン（トレーニング後の整理運動）が大切です。質の高い運動を安全に行うためには、欠かすことができません。

#### ウォーミングアップポイント

- ①ランニング：試合・練習で力を発揮できるように体温をあげる。
- ②体操・ストレッチで柔軟性を高め、関節の可動域を広げる。
- ③全身運動で筋肉と神経の反応を高める。

#### クーリングダウンポイント

- ①運動直後に軽いジョギングで筋肉の疲労物質を取り除く。
- ②ストレッチはゆっくりと筋肉の緊張をほくす。
- ③特にきつた箇所があったところはアイシングする。

昔は遊びを通していろいろな経験をしたものですが、今は「時間・空間・仲間」の3個がなく、遊ぶ機会も減り、コーディネーション（からだをうまく動かす能力）が育っていないのが現状です。子どもたちは、実際に（小さな）けがなどを経験しながら、危険を予測し、回避する能力が身につきます。子ども時代のスポーツ体験で元気で夢を実現できる力をつけたいものです。

### 成長にはスポーツと「栄養・休養」が必要！

競技力の向上

**結果**  
心（強い気持ち）

**技**  
（練習）

**栄養** **体** **休養**  
（食生活）（運動能力）（休息）

#### 食食、食食、副産物中の食食のバランス

- ① 多様な食品を組み合わせよう
- ② 調理方法が偏らないようにしよう
- ③ 手作りや外食や加工食品・調理食品を上手に組み合わせよう

スポーツ活動は、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てる基礎であり、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機に国民のスポーツへの関心が高まり、その活動の充実が期待されています。しっかり食べて、しっかり動かし、世界の仲間とスポーツで交流しましょう。

セーフコミュニティとは、WHO（世界保健機関）が「世界中の人の健康に」という取組を進めるなかで、日々の生活において「安全」が健康に大きな影響を与えることに着目したのが始まりです。亀岡市は、平成20年3月1日、世界で132番目、日本初のWHOセーフコミュニティ協働センターによる国際認証を取得。平成25年7月21日には国内初めての再認証を取得しました。行政や地域の住民をはじめ、企業や組織、団体等と一緒に「みんなが事故、自殺、犯罪がなく、安心して暮らしていける（にはどうすべきか）」を考えるのが、一人ひとりが「気づき」を持ち、自主的な活動へとつながっていきます。

亀岡市健康づくり推進課 健康推進係

亀岡市役所内 福祉課 TEL / 0771-25-5055 FAX / 0771-22-6372

京都府立防災訓練 セーフコミュニティ係 TEL / 0771-25-6788 FAX / 0771-24-5501

### 子どものケガ予防ガイド

セーフコミュニティがめがね 京都府スポーツの安全対策委員会

子どもの命と健康は運動・学習・遊びのバランスです。保護者も子ども、スポーツ指導者も教育関係者の皆さんに、スポーツにもっと楽しく、子どもの発達支援の手段として活用していただくために、このパンフレットを作成しました。

亀岡市では過去1年間のスポーツ少年団のケガ（ケガ）調査を実施。1週間以上練習を休んだり、通院するようなケガを負ったこと割合は、全体では20.5%。受傷率は小学生より、身体の発達の急速な中学生が34.7%と高い状況でした。受傷者は非受償者に比べ、スポーツ少年団の当該活動時間、および少年団以外のスポーツ活動を加えた通算活動時間が長いという結果でした。

また、生活背景との関連では、受傷者は非受償者に比べ、起床時刻が遅く、よく眠れると答えた者の割合が少ないことがわかりました。

子どものケガは軽度のうちに治療し、大きなケガに繋がらないようにすることが大切です。そのためには、基礎的な体力、安全管理力を養い、ケガを重篤化させない知識と行動力を持つことが必要です。

ケガの原因は本人の体力・技術の未熟が42%と高く、不注意は19%です。早寝、早起き、3食きちんと食べる生活習慣がある子どもは、外傷が少ないという結果も出ています。子どもに運動やスポーツに親しむ機会を広げ、保護者と指導者が一体となってケガを予防しましょう。

### スポーツ活動のケガを重篤化させないために

指導者や親だけでなく、スポーツ活動に参加する子ども自ら自分の成長・発達や健康に関心を持ち、運動環境（施設・設備・道具など）の日々のチェックを行うことで安全への意識を高め、ケガを予防しよう。

#### スポーツ開始前の6チェックシート

作成：余財・スポーツの安全対策委員会

No.	チェック項目	チェック
1	子どもの体調（①睡眠 ②朝食 ③熱 ④頭痛 ⑤胸痛 ⑥腹痛 ⑦関節の痛み ⑧体の調子）を確認したか	
2	子どもの着装する服装等に問題がないか	
3	子どもが使用する器具・用具等に不備がないか	
4	使用する施設に危険箇所はないか	
5	応急処置の救急用品は整っているか	
6	熱中症・水分補給など注意を払っているか（下記の表参照）	

31℃以上	28~31℃	25~28℃	21~25℃	21℃以下
運動は原則中止	厳重警戒	警戒	注意	ほぼ安全

# セーフコミュニティに係る視察対応

「地方議会をはじめ、海外からの視察を受け入れ」



JICA(独立行政法人国際協力機構)の視察

30

## 協働まちづくり表彰を受賞(平成30年度)

協働による取組を基礎に魅力ある地域社会の実現に取り組んだ事例を表彰するものです。



31